

日本大学芸術学部



校友会報

平成25年10月発行
2013年秋季号

91

C O N T E N T S

学部長インタビュー	
学部長・名誉会長 野田 慶人	3
第7回日藝賞記念講演	
よしもとばなな氏	5
森田公一氏	6
平成25年度校友会総会	7
皆さん今日は！	9
「第13回福岡江古田会アート展」開催	11

第17回福岡江古田会総会	12
宮城江古田会総会／ふくしま江古田会総会	13
第14回宮崎江古田会総会／山形江古田会総会	14
青森江古田会総会	15
28回目の熊本江古田会総会／佐賀江古田会総会	16
北海道江古田会総会	17
学科ニュース	18
編集後記	23



校友会コーナー（お休み処）を設けております。どうぞ新しくなった江古田校舎にいらして、校友会コーナーにお立ち寄りください。

学部長インタビュー

綾部 夏休み中の時間をいただきありがとうございます。さっそくですが、六月の校友会総会の折に草間貞副学長が祝辞の中で「さすが芸術学部、日本大学での学生調査の結果がトップでした」とおっしゃいましたけど、あれって何のことでしょうか。

野田 ああ学生生活実態調査のことですね。三年に1回、日本大学の14学部と通信、短大を加えて、無作為抽出した学生たちに、その意識や行動を調査するアンケートのことです。

綾部 80パーセントで一番というのは？

野田 その調査の項目の中に今の学部に入ってよかったですか？学生生活は充実していますか？教員の教え方には満足していますか？といったものがありまして、これには、多くの学部で50パーセントから60パーセントの学生が満足しているという回答でした。そのことを指してトップとおっしゃったのだらうと思います。芸術学部では80パーセン

トの学生が満足していると回答しました。草間副学長はこの報告書の委員長を務めていますので。

綾部 もう一つ、今年のオープンキャンパスに6千人近い人が来たと耳にしました。近年よく聞くこのオープンキャンパスとは何でしょうか。私達の時代にはありませんでした。

野田 そうですね。

綾部 大学を開放して、誰でも大学内を見学していいって行事ですか。

野田 いえいえそうではありません。芸術学部ではこのオープンキャンパスを含めて年三回の入試関連の説明会を行なっています。学内の設備や施設等の概要から、中には模擬授業や直接機材に触れさせたりとか、総合的に、大学の内容を見せ、体感してもらうという催しです。

綾部 それに6千人近い人が来たら大変だったでしょう。

野田 一挙に押しよせるという訳ではありません。大ホールで全体説明会は3回に分け

て行いますし、各学科それぞれに時間帯を考慮して、授業や発表、相談会などをやっていますから。

綾部 受験生が大学選びの参考にするために来るんでしょうか。最近は親ごさんも多いと聞きましたが。

野田 そう三分の一位は保護者同伴ですね。うちの特色としては、高校生でも一、二年生から、中には中学生も来ています。将来の受験候補生も来ているんです。また、予備校や高校の先生も見えてるんですよ。ただ、残念なことに、オープンキャンパスに多く来たと行って、かならずしも受験者数が多くなるという訳でもありません。

綾部 前回89号の続きになりますが、江古田で大学生活の四年間を過ごす通年化について、その後の進捗をお聞かせ下さい。

野田 平成30年の4月を目標に通年化に取り組んでゆきます。正式には日本大学本部への内申で了承されてからということになります。

綾部 そうなりますと、現在所沢にいる学生さんが江古田に来て約二倍の学生数ということになるんですか。

野田 ですから教室も設備も足りません。今の学食棟を建てなおして四階建てにしたり、大ホール横の今は駐車場の所に三階建てを増築するつもりでいます。

綾部 三年前にリニューアルが完成し、それも予定には無かった練馬病院跡地に大ホールを建てたり、財政面でも大変ですね。

野田 30年4月から動き始めるとなると28年位から案内に載せなくてはなりません。本部への内申が了承されても、着工は二年経たないとできませんか

ら。今年度中には内申するつもりです。

綾部 えっ、そうなんですか。

野田 ですから了承されたら、これから2年間位の間で、学部、学科は通年化成功の為の必死の努力を強いられます。縮小すべきは縮小し、充実すべきは充実させる。無駄を省き、スリム化を計るとともに新たな芸術教育の可能性を開花させねばなりません。あっ、それから誤解のないように付け加えておきますが、設置基準上の校地面積不足の問題も有り、これで所沢校舎が無くなる訳ではありません。所沢は所沢で残して、今後も色々に活用していかなければなりません。

綾部 校友の中には、所沢校舎

はもうなくなると思ってる人がいるようです。

野田 これからの数年間は話し合いを重ねて、生みの苦しみを味あわねばなりません。お金もない、土地も無い中で、いつも言うように芸術学部にあるのは創意工夫と、いざという時の教職員の団結力です。これ迄にも様々な難局をこの日芸の教職員力で乗り越えてきました。これだけは私が声を大きくして自慢できるところです。江古田の「日芸復活」にご期待ください。

綾部 校友会にも何かお手伝いさせて下さい。本日はありがとうございました。

まとめ 綾部
写真 川村晃生



野田学部長と綾部会長
熊本江古田会にて

第7回日藝賞記念講演

「作家への道 より道含む」

よしもとばなな

6月7日(金) EB-1教室において、よしもとばななさんの記念講演会があった。

同期卒という吉川次郎(映画61卒)氏が素顔のよしもとばななさんを引き出そうと対談形式で始まった。

学生の頃の話題が中心。朝、昼、夜の生活で人生の勉強をし、楽しい思い出話となった。

様変わりした江古田ではあるが今も市場があったり、行きつけの激辛カレー屋さんがあったりで、深いところではあまり変わっていないのではないかという。日藝については、他大学に比べゆとりのある学校、また大人になってわかったこととして、先生方は学生第一に考えていてくれたこと。将来は作家になるだろうと思い、とにかく、枠を設けずに誰とでも付き合ってみたいと考えていた。

学生時代に変わった人達に会うことができ、そのことが人生何をやっ

てもいいと思うようにもなった。

引き続き、山本雅男教授と作家としての対談となった。

物心ついた頃から小説を書き、作っては終わらせ作っては終わらせることを習慣として続けていた。大事なことは終わらせることだったし、一篇一篇終わらせることで楽になろうと努力はしてきた。暗いことの方が明るいことより多いが、目の前の辛いことを10分我慢して生きる、今読んでいる時間を10分延ばす、そうして生き、人生は肯定されるべきものだ。自分で決めたことの中で苦しみ生きているので、その決めごとの枠をはずして外から見てみる、それが小説によって与えてくれることと考え、書いてきた。頭の中で映像が作れるのは小説の良さで、映画を撮るような気分で小説を書く。人の内面を書くことが得意なのでそれを重点に書いている。振り返らないタイプなので常に今が一番

だと思い書いている。と。

学生との質疑応答も、文芸学科の学生のみならず、他学科の学生よりも沢山の質問が出た。

打ち合わせの時、学生になんとか良いアドバイスが出来ればいいが、とおっしゃっておられ、よしもとばななさんの人となりがうかがえた。

真摯に温かく応答していただき、会場も非常になごんだ。

最後に、この恵まれた環境を思い切り利用して楽しい生活を過ごしてくださいと挨拶され終了となった。



入学式スピーチより よしもとばなな

おめでとうございます。たくさんの新しい体験がみなさんをよい方向に導いてくれることを祈っています。

私は人前でお話するのは専門外で、文章を書くのが専門です。

だから書いて来たものを読み上げる形になって、一見心がこもっていないように聞こえるかもしれませんが、そうではありません。

今日この場にひとりひとりに、心から励ましの言葉を与えます。

私にできるいちばんベストの形が、声に出して自分の文章を朗読することです。

みなさんに私の才能の全てをもつて、励ましの言葉をかけたいと思います。

おどかさわけではないのですが、大学を卒業したら、なんでも自分で決めることができるようになるかわりに、一生お金について考えなくてはならなくなります。

どのように考えるにせよ、お金と人生が切っても切れなくなります。

そして家族以外の、自分がたとえ死んでもそんなに大きな影響を受けない人たちと共に働くことになります。

その場所を居心地よくしていくかど

うかは自分次第だとしても、社会に出るとはつまりそういうことなのです。

だから、この四年間は、みなさんにとって、最後の、お金の心配をしないで、家族の中の子供として金銭的あるいは精神的に援助を受けながら、自分の知りたいことを思い切り学べる時間です。

私は自分なりにせいっぱい大学生活を送りましたが、自分の知りたいことを勉強することも、社会に出てからの生活を真剣に考えることもとても中途半端にしてしまって少し悔いています。

でもここで尊敬できる生涯の友も得ましたし、その後の人生で中途半端は一切許されなかったで、そのように中途半端に過ごしてそれはそれでよかったと今は思っています。

でも、私に言えることがあるとしたら、みなさん、四年間比較的自由な時間があれば、人はほとんどどんなことでもできます。

今後の人生につながるどんなことだって、可能なのです。

専門的ななにかを学ぶことも、生涯の友を得ることも、お金をかけずにたくさん旅行して見聞を広めることも、

語学の習得も、図書館の本を全部読むほどの読書も、とにかく大きく開かれた四年間です。

それから、ここは芸術学部です。

昨日読んだ本にこう書いてありました。

「芸術の目的は治療することである。人を癒さない芸術は本物ではない」

はじめは自己治療や自己満足のために芸術を学んでもいいと思います。

しかし、ここで学んだことを、社会に出たら必ず、人のために、同胞のために役立ててください。

これからの時代は、ひとりひとりが判断して自分の道を開いていかなくてはならない、たいへんな時代だと思います。

どうか自分の頭で考え、自分の足で歩き、人の影響を受けてもそれについてよく考えて、自分だけの人生を創っていきましょう。

ただモヤモヤ過ごしても、キラキラ過ごしても四年は四年です。

なので、できることなら、今の瞬間をキラキラと受け止めて、なるべく自分が大きく変わる四年間にしていってくださいね。

心から、みなさんの成長をお祈りしています。

自身の仕事経験に基づく日本の音楽産業の構造やヒット曲の生み出し方について

森田公一

7月8日(月) 音楽小ホールにて森田公一さんの記念講演会があった。

板倉駿夫先生より森田公一さんの紹介、宮澤学部次長の挨拶で始まった。

ご本人の希望で音楽家であるので講演より対話形式でやりたいとのこと電子ピアノの前に座り、ときど

きBGMで語り弾きのようにご自身のことを語り始めた。気がつけばピアノは弾け、家にあったギター、ヴァイオリンを自己流で覚え、高校ではトランペット、トロンボーンを学び、音楽の先生に和声学、楽器などおしえた。当時、日大にはオーケストラがなかったので作曲してもなかなか音

にはならなかった。しかし、CMは15秒から長くても2分の世界なので作曲にスピードが増した。大卒の給料が1万から1万2千円の時代に7万円位働いていた。1970年代～1980年代の10年間で3600曲作った。自身の感性を育てるためには、沢山の友人を作り、型にはまるのではなく、

ぶちこわす精神を持ち、わき道にそれてみることも大事。作曲にあたっては日本人の好きな音、メロディー、常識を破る音を使うテクニックなど、曲ができるまでの裏話など専門

の学生にとっては、すいこまれるような講演であった。途中、青春時代、あの鐘を鳴らすのはあなた、ひなげしの花、CMソング多数口ずさんでもらい沢山の曲を作り上げてきた自信

と強さと誇りが伝わり、学生との質疑応答もあり、気がつけば、終了時間となっていた。



平成25年度校友会総会

平成25年度日本大学芸術学部校友会総会が6月29日(土)午後5時より東棟E101教室において開催された。

総会は綾部会長の挨拶、続いて議長に小泉定弘氏(写41卒)、副議長に南岡秀男氏(写46卒)、書記に西尾敦子氏(音平成元卒)を選出、議事に入った。議長より会則10条により会は成立する旨の報告があった。

会務報告(川上常任幹事・総務)決算報告(宮澤常任幹事・財務)監査報告(箭内監事)予算案審議(宮澤常任幹事・財務)と進行した。

いずれも原案通り拍手を持って承認された。

推薦校友について。宮澤常任幹事より住田望氏、相沢副会長より山下兼一氏の紹介がなされ会員の賛同を得て承認された。

引き続き学生食堂にて懇親会に入った。

野田慶人学部長、草間副学長の

平成25年度(2013年度) 予算

収入之部		
勘定科目	摘要	金額(円)
本部よりの会費	4,000円×4,200人=16,800,000	16,800,000
校友会終身会費	5,000円×300人=1,500,000	1,500,000
雑収入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費 等	980,000
収入利息		30,000
合計		19,310,000

支出之部		
勘定科目	摘要	金額(円)
総会費	懇親会	660,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	200,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・雑巾 他	20,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	30,000
通信費	会報発送(在校生・卒業生)総会・会費請求切手他	4,700,000
補助費	学科同窓会・幹事会・総会・芸術祭・卒業生を送る会	420,000
寄付分担金	本部校友会分担金・日本大学創立130周年記念事業募金	400,000
印刷費	会報・総会・幹事会・終身会費請求書 他	3,000,000
人件費	事務局員給料・アルバイト代・人材派遣	4,400,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	700,000
交通費	事務局員通勤定期代 他	200,000
租税公課	利子税	10,000
本部役員会費	年会費(本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万)	170,000
交流費	組織拡充(各江古田会との交流)・各種校友活動への後援・他	2,600,000
活動費	学生諸活動支援・バッジ、ストラップ	550,000
機械維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良 コピー機リース(202,080円)	350,000
雑費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	400,000
特別会計	防災グッズ 購入・学部へ寄贈	500,000
減価償却費		
合計		19,310,000

挨拶、最年長参加の中田ムメノさんの乾杯で始まった。

先程推薦校友の承認を頂いた山

下兼一氏の紹介、亀井俊一氏の祝いの唄あり、山田道子さんの歌ありで学内執行部、課長職以上の皆

さんにもご出席頂き、皆さんで楽しいひと時をすごした。相沢副会長のメで会は終了した。



皆さん今日は！

●高橋貞二(旧制19年度卒)

90才になりましたので、ようやく無職になりました。いたって元氣一杯で!!頑張っています。

●栗田直次郎(旧制22年度卒)

入学は、工科音楽科でしたが終戦で写真学科に変更。有楽町、サンニュースフォトスト社に入社。父が朝日新聞社に勤務してた関係で25年朝日新聞写真部に転勤。以来平成9年朝日新聞も終了。46年間写真と関わってきました。現在85才。

●商家訓(写真35年度卒)

今秋で喜寿を迎えます。今年は第52回フジフィルム展金賞、視点及JPC展に入選しました。写真は趣味として楽しんでいます。今仲間が約80名、毎年春と秋、写真展を催しています。

●山脇義文(写真41年度卒)

尊敬する金丸重嶺師、渡辺義雄師に写真を学んだことを誇りに思っています。銀板・デジタルと表現手段が変わって来ました。師に学んだ写真基礎を思い起し、今住んでいる文化の町、奈良で写真を撮りたいと思います。

●森信英(写真54年度卒)

卒業して32年。会社起業し25年。時がたつのは早いものです。日芸出身の意欲のある若者の入社を強く願う今日頃々。

●澤野新一郎(写真58年度卒)

昨年秋と今年2月はNHKBSプレミアム「グレートネイチャー」に出演。今年8月には、南アフリカヨ

平成25年度総会返信の近況報告を掲載いたしました。無断で掲載させて頂きましたことお詫びいたします。(順不同)()内は学科卒業年度です。

ハネスブルグにて写真展を予定しています。

●阿部臨太郎(写真平成17年度卒)

学校向けの図工・美術教材卸業社に勤め丸6年が経ちました。当初は写真と全く縁がない職だと思っておりましたが、そんなこともなかった様で、現在ゆえあって小中学校向けにデジカメを使った図工美術の授業提案などを行なっております。大学で勉強したことを思い出しながら業務にあたっています。

●二口善乃(映画30年度卒)

恒例の「日芸二七会」を今年も2月7日に第34回目を開催いたしました。傘寿を迎えた元気な仲間が集い盛会でした。昨年10月には台湾旅行で「台湾江古田会」の方々と有意義な時を過ごしました。

●池田義一(映画33年度卒)

入社3年目の27才の時、RKB毎日で制作した芸術祭参加の意欲作『ひとりっ子』(東芝日曜劇場)が完成と同時に右翼の介入で放送中止となった事件がありました。それから51年の今年、私たち「九州民放OB会」から全国の仲間呼びかけながらDVD化して積極的な上映、普及活動に全力で取り組んでいます。

●足立純一(映画36年度卒)

月に8日～10日間仕事をし、ボランティア活動も15年、1年半の研修、実習をへて取得したライセンスは1年更新、月1回の研修他必

要条件を満たさなければ……というもの。月28～32項目あるスケジュールを楽しみながらこなしています。

●井下啓子(映画41年度卒)

江古田に入学して半世紀が過ぎ、先日親しい仲間と久し振りに昔話をしました。時代小説の佐伯泰英が映画学科3期先輩と知り、何故か嬉しく思っています。

●青柳省吾(映画平成4年度卒)

2013.7/18～7/31

青柳省吾映画におお切り絵展「ちよきちよきシネマ」

◎鳴海要記念陶房館ギャラリーを予定しております。

●上野和己(美術30年度卒)

25年4月29日、春の叙勲を授与。(旭日双光章) 5月13日伝達されました。

●松岡義和(美術34年度卒)

75才、3月に大空町図書館長定年退職。作家生活に入る。

「鬼学」(今人舎)「日本の神さまたち」(ミネルヴァ書房)「乳幼児の絵画指導」(黎明書房)既刊。その他多数。

●加茂川亨(美術43年度卒)

定年後、水戸市展等々絵画、写真などを公募参加しております。会社OB会では絵画クラブで入会し楽しんでおります。

●東福龍(美術46年度卒)

現在、やきとり割烹「本陣」を創業して早や30年になります。60代になって健康に気をつけ趣味の釣り、畑(有機野菜)食材作りに毎日

楽しんで、むりをせずがんばっています。校友のみなさん、九十九里にお越しの節はお寄ください。

●内山江里子(美術平成3年度卒)

7月8日～13日(土)まで銀座なびす画廊にて内山江里子展「森羅万象～木版画・ドローイング～」を開催いたします。13日はフルート奏者、西村葵氏とフルート・ドローイングのコラボレーションを行います。ご高覧いただければ幸いです。

●山口昭二(音楽25年度卒)

音楽学科卒。日本大学芸術学部魂が宿っているのでしょうか。今でも(86才)元気に定期的(日本の音楽展出演、洋楽寄席出演)演奏活動を続けて居ります。

●安齋秀樹(音楽49年度卒)

今年の3月末で沼田市立池田中学校長を最後に38年間の教職生活に終止符を打ちました。日芸で学んだおかげでここまで来れた事に感謝をしています。今後は音楽教室を開きバイオリンを教えていきたいと考えています。日芸の益々のご発展をお祈り致します。

●牧野ゆき子(音楽53年度卒)

今年4月、娘が日芸(文芸)に入学致しました。江古田の入学式にはよしもとばなさんと作曲の先輩森田公一さんが来てくださり、娘と大喜びしました。これからまた時々日芸に伺います。

●森岡高司(音楽56年度卒)

ディズニーマジックでショー音楽を制作しております。ディズニーマジックのビックバンドビートでは、ディレクターをその他のショー音楽も手がけております。

本学出身者も多く、心強く思っております。

●木村愛美(音楽平成21年度卒)

日芸で出会った音楽学の授業がとても興味深く、卒業後も東大に入りさらに2年間研究を続けました。現在は地元である八王子市の文化財団に勤めています。大学での学びを心に留め、音楽家と市民の方々に寄りそいながら、業務に当たりたいと思います。

●岩永隆(文芸38年度卒)

当福岡江古田会は九州各県の校友と共に各々の会の発展を願ひ会の交流を大切にしていきたいと思っています。又会の高齢化も急速に進み若返りを如何にと考慮するも若い会員の知恵と力を得なくてはなりません。若いエネルギーを得る為に私共ロートル役員一同頭を振り絞って頑張っています。良きアドバイスを教え乞う次第です。

●飯田幸彦(文芸52年度卒)

日芸時代は、映画を作っていましたが、今はインターネット関連の会社を経営しています。最近映画作りと経営は似ていると思うことが多くなりました。人生は楽しいですね。

●石原忠夫(演劇33年度卒)

学部先輩でもある木暮実千代さんを顕彰する「小暮実千代の会」が昨年、郷里下関に発足。事務局を手伝っておりますが、資料、遺品集めが現状です。学部制作の「夜間中学」という映画に出演の記憶がありますが、それら学校に残っているものがあれば、お知らせ下さい。

●石川千穂子(文芸52年度卒)

昨年は「日本人の知らない日本語ドリル」をメディアファクトリーから、今年は「世話の神話大図鑑」をPHP研究所より刊行。「児童文芸」誌に、新美南吉生誕百年を記念して、詩人としての新美南吉の特集を組みました。

●齋藤修(文芸55年度卒)

皆様、御苦勞様です。一般社団法人ユニバーサル・コミュニケーション・デザイン協会を立ち上げ、運営しています。(UCDA)フォントの開発等で美大系の大学との連携を進めています。

●小柳安夫(文芸56年度卒)

卒業して丸31年。文芸学科非常勤講師として今も母校とのつながりがありますが、素晴らしいキャンパスになった江古田校舎を見て、こんな環境で学べる現在の学生たちがうらやましい限りです。ハード面の充実は以上の通り。私としてはソフト面(自分の授業)の充実に向けて日々努力します。

●植村家忠(演劇39年度卒)

少子高齢化社会、町村の過疎化、自主財源の減少、等々課題の多い町運営に汗を流している毎日です。

●南川順二(演劇45年度卒)

みんなで歌おう会を多摩地区で行なっています。ギターとピアノで昔の歌声喫茶風コンサートです。健康作りとほけ防止に良いと思っています。最高齢者は94才の方が来ておられ、いつも50名位の人達が集まります。

●高木百樹(演劇48年度卒)

コピーライター、デザイナー、カメラマン、編集者等をプロデュース

スして広告制作業を続けています。主として不動産広告ですが、最近企業間タイアップの交渉を駆使して販売促進の仕事も多々。広告はサービス業ですが、「演劇学科」での時間が応援しています。

●富田真由(演劇63年度卒)

2010年12月に新島こども劇団を主宰し、地元小学校体育館で2時間のミュージカルをやりました。燃えつきました。

●松本茂樹(放送40年度卒)

八柳誠(やつやなぎせい)のペンネームで時代小説を執筆しております。長年放送作家をしておりましたが、還暦の頃から小説に転向しました。未だ新人の部類です。

●二見和男(放送44年度卒)

契約職員終了後もキャスターと

して週5日ニュース番組を担当しています。北陸新幹線の開業を2年後に控えています。大きく変わる地域の情報を伝え続けます。皆さんも是非、北陸金沢へお越しください。

●祢津英彦(放送44年度卒)

(株)文化放送は30年勤務。独立して広告代理店設立、15年が経ちました。業界も経済不況で厳しかったのですが、スポンサーにめぐまれ何とか15周年を迎える事ができました。母校の発展を祈念します。

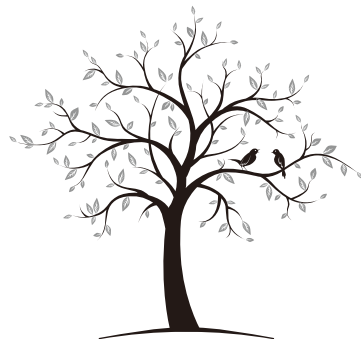
●上原美智子(放送49年度卒)

定年を過ぎた年令になりましたが、まだ、テレビ番組のタイムキーパー(フリー)として、がんばっています。と言うか使ってもらって

います。周囲は若い人ばかりでも、楽しいで～す!!

●藤井雅之(放送56年度卒)

今年の4月から静岡県伊豆半島の南半分を管轄する下田警察署の署長をしています。管内は、温泉白浜海水浴場、河津桜など見所満載の観光地です。ぜひ一度お出掛けください。



第13回福岡江古田会アート展開催

5月9日～14日

“気楽なアート展”をテーマに第13回福岡江古田会アート展を5月9日～14日、福岡アジア美術館交流ギャラリーにおいて開催しました。会場は周辺に「博多座」や「ホテルオークラ」があり、福岡市の中心に位置します。今回の出展者は29名と過去最多。写真、絵画、陶芸、書など個性豊かな作品およそ170点が展示され、館内を彩りました。細密な金魚のイラスト、一抱えもある大壺、天井から床まで4mもある巨大な人形の写真。また、福岡県伝統工芸を記録した「八女極薄和紙を漉く」のDVD上映もあり、訪れた人たちから「いろいろな分野の作品が見られて楽しかった」、「日芸パワーを感じました」、「大いに刺激になりました」との嬉しい感想を多数いただきました。

開催前日の5月8日、200㎡ほどあるギャラリースペースを皆で汗をかき、作品をセッティングしたのが報

われた思いでした。高齢化が進む福岡江古田会ですが、会員の表情もいつになく晴々しているように思える



6日間でした。また来年もアート展を通して交流の輪がさらに広がるのが楽しみになりました。最後になりましたが、東京、大阪、また沖縄を除く

九州各地からの協賛出展を数多くいただきました。快く出展くださった校友皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

アート展実行委員
西島善和(写真学科55年卒)



第17回福岡江古田会総会

5月11日(土) 於：福寿飯店

福岡江古田会総会(平成25年度)は5月11日(土)に福岡市中央区の福寿飯店で開かれた。最初に昨年のアート展には元気に出品されていた阪本猪一郎(S44年度卒・映画)会員が亡くなりご冥福を祈って黙祷を行っ

た。出席者は来賓の野田学部長、綾部校友会会長のほか校友、会員あわせて24名と例年に比べ少なかった。他会同様ご多分に漏れず当会も会員の高齢化と新入会員の減少が最優先課題となっている。挨拶にたった粟村

支部長は会員の減少を危惧し、九州各支部間の交流を図り会が長続きするように盛り立ててほしいとし、その為には危機的状況の打破をと参加者に訴えた。

今年は役員改選期で長年幹事長



写1



写2

を務めていた美野田肇氏(S39年度卒・映画)が新会長となり。栗村皓司会長(S35年度卒・映画)は相談役に、其のほかの新役員には岩永隆副会長(S38年度卒・文芸)、松村明幹事長(S43年度・写真)、飛嶋慶一事務局長(S44年度卒・写真)、横田文雄広報担当事務局(S48年度卒・写真)、西島善和アート展担当事務局(S54年度卒・写真)、山田重寿会計(S35年度卒・写真)、飛嶋邦子副会計(S44年度卒・放送)、監査は芥川親雄(S32

年度卒・映画)、平田寛(S32年度卒)、顧問に藤井克美(S30年度卒・写真)、城島信行(S34年度卒・写真)、神田啓一郎(S36年度卒・美術)が承認された。

この後の懇親会は恒例の持ち寄り品の福引きが行われ、黒江克彦氏(S43年度卒・写真)から特別出品の韓国の飯台を、長年かかってようやく獲得した山田重寿氏は大はしゃぎするなどおおいに盛り上がった(写真1)。此の後参加者全員で恒例の記

念撮影(写真2)をし、締めくくりは博多手一本でお開きとなった。

同時期に開催されていたアート展(福岡アジア美術館・5/9~14)には、会員のほか原直久教授や熊本、長崎、佐賀、鹿児島、大分など会員以外の他支部、校友からも出品があり合わせて27人が参加した。年を追う毎にレベルアップが図られ充実した展示となった。

福岡江古田会幹事長 松村明

宮城江古田会

5月18日(土) 於：北の一

5月18日土曜日。仙台市内の街路樹が一番美しい緑色となり、毎年恒例の「仙台青葉まつり」が開催されました。今年の宮城江古田会総会・懇親会は青葉区一番町の郷土料理「北の一」にて、野田慶人学部長、綾部東洋子校友会会長、深松勇校友会宮城県支部長、國分一彦岩手江古田会会長をお招きして行われました。

総会の部では野田学部長より芸術学部近況報告があり、校舎だけではなく内容もリニューアルしている事、江古田での通年教育が実現に向かっていている事など伺いました。私は所沢校舎1期生でしたので、「通年教育がようやく実現する！」ということに特別な思いがあります。先輩方と離ればなれだった経験は今となればいい思い出ですが、正直に言いますと当時は何かと不便がありました。そして、会計報告・役員改正など議事は承認され懇親会の部へ。

「北の一」の親爺さんのスペシャルなお料理にイラスト入りのお品書き、竹酒に柚子ジュースなどを楽しみながら朗らかに。森光正宮城江古田会監事(映画43)の閉会の言葉にもあったように「ご縁を大切に」していきたいと感じる貴重な交流の場となりました。

りました。

店の外に出ると定禅寺通りは「青葉まつり」の「宵流し・総踊り」がクライマックスに。すずめ踊りの祭連を眺めながら賑やかな仙台の夜は更けていきました。

(放送H4卒 佐藤 円)



ふくしま江古田会総会

5月25日(土)於：姑娘飯店

設立5周年を迎えるふくしま江古田会の総会は会員18名が出席して郡山市で開催されました。来賓として

学部長野田慶人教授、校友会綾部東洋子会長それに日大校友会県支部森栄一支部長をお迎えしました。

挨拶した島崎恒夫会長は「5周年を迎え記念のアート展を計画したが、大震災で被害を受けた公共の施設が

使えず民間の会場は1年先まで予約済みで開催が難しく保留とした』とのべ5周年にこだわらず準備が整った時に開催する意向を示しました。

総会は24年度の事業と決算報告を承認し、25年度の事業として会報＜超感度＞第5号の発行と、予算案を可決しました。次いで任期満了による役員改選を行いました。

その結果、会長島崎恒夫(留)副会長吉田公之(留)事務長神山靖範(留)会計尾形寛一郎(留)幹事酒井泰彦(留)池上順子(新)田中聡(新)古宮未奈子(新)監査役熊耳康昌(留)が承認されました。

最後に野田学部長が講話、日大創立130周年に向けての意気込みを熱く語りました。

懇親会では野田教授の教え子が先生、先生を連発して教授を独占。福島民報に掲載中のマンガ、会津鶴ヶ城籠城戦にのぞむ若き日の新島八重を描いた「オンテンパール八重」の原作者高見沢功さんが自作を語り、初参加の俳優佐野準さんが綾部会長の後輩とあってサービスに努めるなど親交を深めたひと夜となりました。

第14回宮崎江古田会総会

6月8日(土) 於：杉の子、桃太郎の間

平成25年度宮崎江古田会総会は6月8日土曜日18時より、宮崎市の郷土料理店「杉の子、桃太郎の間」にて、司会の長嶺副会長の挨拶で始まった。まず、後藤会長から挨拶があり、次に事務局より平成24年度会計監査報告、続いて次年度事業計画について提案があり、機関紙「どげんしょ」と継続と校友からの原稿依頼、福岡江古田会「アート展」出展協力、15周年の節目の年に伴う記念事業の話など提案があった。総会終了後、来賓と共に記念撮影を行い、司会の米倉事務局長進行で懇親会が始まった。まず、物故者「二宮利雄氏 46年度卒」への冥福を祈り、黙祷を行った後、「日本大学校歌」の斉唱を声高らかに歌った。そして後藤会長からの挨拶では校友、来賓合わせて18名の皆様へ感謝と江古田会が益々盛り上がる様に訴えた。その後来賓の紹介があり、野田学部長、綾部校友会会長、岩永福岡江古田会副会長、山田福岡江

古田会会計、福田熊本江古田会副会長、後藤宮崎日本大学高等学校校長、埼玉出身の栗城美恵子様(文芸卒)宮崎日本大学高等学校教諭が紹介された。野田学長から100周年に向けたプロジェクトの話、大学の現状、今後の展開などの話があった。歓談後、恒例の「3分間スピーチ」があり、大変盛り

上がった後ビンゴゲームが開催された。今回は皆さんの協力による景品も沢山集まり、昨年以上の大受け大成功であった。最後に岩永福岡江古田会副会長の一本締めで無事、宮崎江古田会総会・懇親会がお開きとなった。

宮崎江古田会会長 後藤欣久



山形江古田会総会

6月16日(日) 於：山形グランドホテル

芸術学部校友会山形県支部(山形江古田会)の平成25年度総会が、山形グランドホテルで開催されました。

来賓として、野田慶人芸術学部学部長、綾部東洋子芸術学部校友会会

長、加藤賢一日本大学校友会山形県支部副支部長、近藤博七日本大学山形高等学校校長の方々をお招きしました。会員16名の参加と、今年是在学生父母に加え卒業生父母の参加もあ

り、賑やかに開会しました。来賓祝辞と紹介に続き、会計決算報告と監査報告があり承認された後、総会は、例年通り迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ち

かねの懇親会が開会しました。日本大学校歌斉唱から始まりました。来賓祝辞に続き乾杯の後、懇親に入りました。今年は各年代の会員参加があり、「日藝」のつながりがより強く感じられ、「江古田」の街に居る様な雰囲気になりました。後半になり恒例の会員近況報告、1分で終わらない「1分間スピーチ」の開始です。しかし、司会の井澤聡(放送・昭和62年度卒)幹事の進行力により、ちょうど良い時間に収まりました。平成年度卒業の会員参加も増えて、楽しく、明るく、元気よく、会は進行しました。時間の速さを感じながら、須藤一之(放送・平成2年度卒)幹事長の一本締め

で中締め、閉会となり二次会へと進みました。

支部長 横倉晋也
(美術・昭和52年度卒)



青森江古田会総会

7月6日(土) 於：ホテル青森

平成25年度青森江古田会の総会が、7月6日青森市内の『ホテル青森』で開催されました。

総会は冒頭、高木保県支部長(演劇S32年度卒)が今後の方向性などを盛り込んだ開会の挨拶を行い、続いて物故支部会員を偲び黙祷をしました。今回は、来賓として、芸術学部校友会の副会長で、学部次長でもある原直久教授が出席され、芸術学部の現況と今後の進路について述べられました。このあと事務局長の高坂進さん(写真S41年度卒)から、平成24年度の青森江古田会の活動経緯と会計報告、監査報告が行われ、全員一致で承認されました。

記念撮影のあと懇親会に移り、芸術学部の講師の和田光弘さん(写真S44年度卒)の挨拶のあと、角田周さん(音楽S51年度卒)の音頭で乾杯。会食しながら出席者全員の自己紹介が行われ、一人一人壇上で、思い思いの近況が述べられ、笑いが出るなど、和やかな雰囲気となりました。

今年は、青森江古田会発足5周年記

念として『5』に因んだ賞品が用意され、柴田園子さん(演劇H10年度卒)の進行で抽選が行われました。「お酒」「本」「お菓子」などの他に、「5本指」のついた靴下が当たるなど、会場が大爆笑する場面もありました。

楽しい雰囲気にひかれたのか、『竹林坊』での二次会にはいつもより多くの会員が参加しました。原先生を囲んでの会話、若い人、老いた人が一

つになって、新しい校舎になって…、昔の店が無くなって…、またあそこは今どうなったのか等の会話が行き交い、盛り上がりました。歳をとると出無精になりがちですが、仲間と交わる事によって忘れていたことも思い出され、貴重な一日となりました。

笹田 正治
(放送S38年度卒)



28回目の熊本江古田会総会

7月6日(土) 於：熊本交通センターホテル

今年の熊本江古田会総会は7月の第一土曜日6日に熊本市のホテルで開きました。

今回も野田学部長、綾部校友会会長に出席していただきました。また日芸関係では、佐賀の音成会長、福岡から松村幹事長がご来熊。

熊本江古田会は発足当初から、県

内の他学部校友会と交流を続けており、今回は旧農獣医学部と歯学部の方々と県支部の役員にも出席していただきました。

総会では、まず野田学部長、綾部会長から、学部の近況などについての報告を伺いました。そして2015年に熊本江古田会発足30周年を迎えること

から、役員を中心に企画展などを計画していることを報告し、了承を得ました。

また各江古田会と同じように総会出席者が減っていることから、今後役員1人が参加者1人を確実に勧誘することにしました。

ところで例年、佐賀の総会の翌日に熊本で開催するということが続きましたが、今年は熊本の翌日が佐賀の総会になり野田学部長、綾部会長とともに、佐賀の総会に参加しました。佐賀の校友の方々には大変お世話になりました。

余談です。私は酔った勢いで「30年記念にベネチアに行こう」と呟えたようです。これはベネチアで絵画の勉強をした会員がいたためなのですが、これが実現できたら、ほんとにいいなあ～と思っています。

会長 奥村隆志



佐賀江古田会総会

7月7日(日) 於：旅館あけぼの

恒例の佐賀江古田祭り(芸術学部校友会佐賀県支部総会)を、7月7日(日)、佐賀市の旅館あけぼので行いました。

総会には、前日の熊本江古田会に引き続き、野田学部長、綾部校友会会長、熊本江古田会の奥村会長と川村さん、福岡江古田会の飛鳥さんの出席をいただき、賑やかに開催することが出来ました。

野田学部長からは、今後の学部の在り方・展望について、綾部会長からは、佐賀江古田会の活発な活動をと叱咤激励を受け、久しぶりの再会に暑さも吹き飛び、遅くまでお付き合いいただきました。

そして今回は、佐賀から嬉しいニュースを発信できます。

佐賀からも芸術学部に進学されま

すが、卒業後、佐賀での受け皿が少なく、なかなか故郷に戻ってくる人がなく、佐賀江古田会も高齢化が進ん



でいました。そんな中、何と新会員が誕生しました。それもまだ20代。H21年・デザイン学科卒の小森あやさん。H22年・写真学科卒の松尾匠悟さんの2名。出席の熊本・福岡の江古田会も羨むほどのサプライズとなりました。

もう一つは、会報の発行です。今ま

では、佐賀江古田会としての実績がありませんでしたが、今回、音成会長が発奮され会報を発行することとなりました。発行日は未定ですが、近々に形にしたいと思っております。

七夕の夜のごとく、年に1回しか会えない方もいらっしゃると思いますが、久しぶりに元気な顔を拝見するだけ

でも、この会の素晴らしさを噛みしめています。猛暑の中、お越しいただきました皆さまに改めてお礼申し上げます。

また来年お待ちしております。

佐賀江古田会事務局 土井洋
(写49卒)

北海道江古田会総会

平成25年7月27日(土) 於：札幌東武ホテル

平成25年度の北海道江古田会総会・懇親会が、7月27日(土)午後6時より、札幌東武ホテルにて、来賓に綾部東洋子会長、野田慶人学部長をお迎えし、盛大に開催されました。総会では、蓬田支部長の挨拶の後、牧議長のもと、氏家事務局長、斗澤会計幹事より諸案が説明され、満場一致で承認されました。

成田フォトサービスの記念写真撮影の後、岩佐副支部長の司会により、日大校友会札幌支部長代理の是安正之様の乾杯で、懇親会がスタート、来賓挨拶では、綾部会長より校友会の現状について。野田学部長からは、芸術学部の取り組みについて、お話をいただきました。

今年も、会員による特別出演を企画しました。演劇(55年入学)の堀裕子さんは、ジャズダンスで活躍中、会場のスペース一杯にアーティスティックな見事なダンスを披露し、参加者を魅了しました。

今年は、新企画のジャンケンゲー

ムも取り入れましたが、落とし穴にもめげずに勝ち抜いたのは、副支部長の牧さんでした。

福を呼ぼうと行っているスクラッチクジ、今年もちょっとの当たりがでましたが、来年に期待しましょう！

お忙しい中、駆けつけていただいた、医学部の五十嵐院長、法学部の八十島支部長、札幌日本大学浅利中

学・高校長。ありがとうございます。

楽しい時間は、瞬く間に過ぎ、札幌日本大学学園 浅利 徹理事長の締めにより、お開きとなりました。

すばらしい校歌とともに、またの再開を期して。

北海道江古田会会長 蓬田秀泰
(音楽42年卒)



学科ニュース

写真ブロック



●今年度から一眼レフによる動画撮影の授業「画像処理Ⅲ (DSLRムービー)」を藤本ツトム先生(平2年度卒)により開講しました。多数の受講希望者がありました。

●昨年度開講した冠授業のアマナプロフェッショナル講座を特別講座として単発で5月27日に開講しました。テーマは「これからのビジュアル・コミュニケーションに対する『スタンス』と『発想』を学ぶ」でした。

●6月12日に客員教授大石芳野先生(昭41年度卒)の特別講座「『ふくしま』その現状と未来」が所沢校舎で行われました。

●7月12日に江古田校舎で写真家佐久間里美氏により特別講座が行われました。テーマは「写真と絵画の境界について」でした。

●「出て来い新人2—日本大学芸術学部写真学科 気鋭学生写真展」をニコンサロンbis新宿で7月2日から7月8日に開催しました。出品者は4年次生の荒井真丞、内山芳晴、鯨澤和之、王佳曄、久保慶多、黄吟茜、嶋本郁子、杉本卓也、藤井香奈子、町田有理、簾希里子、楊半蔚です。

●平成16年以来途絶えていた「写真機材展」をカメラメーカーなど12社の協

力により江古田校舎で時期を改め復活させました。7月17日、18日に東棟2階の学生ホールで行われました。

●高校生のためのワークショップを7月27日、28日に開催しました。

●写真甲子園2013・東川フォトフェスタ(8月6から11日)をバックアップしました。

●残念なお知らせですが、3年間にわたりゼミナールや報道写真の授業を担当頂いた客員教授の管洋志先生(昭42年度卒)が4月10日に67歳でご逝去されました。さらに長く写真学科で教鞭を執られ、校友会でも活躍された大山俊夫先生(昭21年度卒)が4月30日に88歳でご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

映画ブロック



●「フォーカスイン '2013」
平成24年度卒業制作、映画演出Ⅲ／

映画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン'2013」が、平成25年6月24日～6月30日までの7日間、江古田校舎東棟EB-2教室で行なわれました。72作品が上映され、のべ870名余りが来場し盛況のうちに幕を閉じました。

●平成25年度オープンキャンパス
今年度のオープンキャンパスは平成

24年7月15日の海の日に江古田校舎で行なわれました。映画学科では、PRビデオの上映、映画学科施設見学ツアー、映像表現・理論コースの説明会、卒業制作や映画演出Ⅲ／技術Ⅲの実習作品上映会、進学相談が行われ、多くの受験生が来場しました。

美術ブロック



○2013年7月20日～9月1日
鞍掛純一＋日本大学芸術学部彫刻コース有志が瀬戸内国際芸術祭2013に参加(高松港)

○彫刻コース4年 増田稜子 個展
会場：表参道画廊 〒150-0001渋谷区神宮前4-17-3アーク・アトリウムB02

日程：2013年10月2日(水)～10月7日(月)

時間：12:00～19:00

○内山翔二郎 個展／彫刻コース助手
会場：プラザギャラリー 東京都調布市仙川町1-24-1-1

日程：2013年10月5日(土)～10月27日(日)

時間：10:00～18:30／水曜定休

○「ジェロニモ」／鞍掛純一 富井大裕 内山翔二郎 彫刻コース有志

会場：TURNER GALLERY 東京都豊島区南長崎6-1-3

日程：2013年10月19日(土)～10月30日

(水)

○鞍掛純一 個展

会場：プラザギャラリー 東京都調布市仙川町1-24-1-1

日程：2013年11月2日(土)～12月22日(日)

時間：10:00～18:30／水曜定休

○松本隆 個展／彫刻コース非常勤講師

会場：プラザギャラリー 東京都調布市仙川町1-24-1

日程：2013年11月2日(土)～11月24日(日)

時間：10:00～18:30／水曜定休

○長谷川佐知子 個展／彫刻コース非常勤講師
会場：プラザギャラリー 東京都調布

市仙川町1-24-1
日程：2013年11月30日(土)～12月22日(日)

時間：10:00～18:30／水曜定休

音楽ブロック



平成25年度音楽学科主催演奏会は、次の通りです。いずれも入場無料ですので、お気軽にご来場ください。ただし第112回定期演奏会は全席指定ですので、座席整理券が必要となります。詳しくは音楽学科までお問い合わせください。

●第110回定期演奏会

於：練馬文化センター小ホール
10月10日(木)

17時30分開場／18時開演

＜出演者＞ピアノ：石井緑、浦本雅、阿佐美まい、純田未樹、平田亜樹 ソプラノ：橋本美優、愛宕結衣、佐藤綾子、高橋薫 メゾソプラノ：小林麻利子 バス：齋藤翔 作品発表：佐藤里香 フルート：滴草幸実 トロンボーン：藤井玲美 オーボエ：鹿又寒太郎 打楽器：伊藤諭

●第111回定期演奏会

於：なかのZERO大ホール
10月21日(月)

18時00分開場／18時30分開演

＜演奏曲目＞

根本修幣：「遙念」(作品発表：根本修幣)
モーツァルト：クラリネット協奏曲イ長調(Cl.：寺島由紀子)

ドニゼッティ：歌劇「アンナ・ボレーナ」より「私の生まれたあのお城」(Sop.：増田未玲)

ハイドン：トランペット協奏曲変ホ長

調(Trp.：末吉菜美)

イベール：アルト・サクソフォーンと11の楽器のための室内小協奏曲(Sax.：渡辺定路)

ショパン：ピアノ協奏曲第2番へ短調【Pf楊麗貞(本学教授)】

○指揮 今泉 久・右近次郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

●第44回オペラ公演

於：練馬文化センター小ホール
11月6日(水)

18時開場／18時30分開演

＜演奏曲目＞

モーツァルト：歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」(ハイライト)

○指揮 江上孝則

○演出 岩田達宗

●第41回ファカルティーコンサート

於：芸術学部音楽小ホール
11月9日(土)

18時開場／18時半開演

音楽学科の教員による演奏会です。

●第49回室内楽の夕べ

於：所沢市民文化センターミューズ・キューブホール

11月13日(水)

17時30分開場／18時開演

9月末に行われる室内楽学内演奏会において、優秀であった団体による演奏会です。

●第25回ウインドオーケストラ定期演奏会

於：練馬文化センター大ホール
11月19日(火)

18時開場／18時30分開演

＜演奏曲目＞

保科洋：「古祀」

A. リード：アルト・サクソフォーンとバンドのためのバラード

A. リード：アルメニアン・ダンスパートⅠ・Ⅱ

V. パーシケッティ：吹奏楽のためのディヴェルティメント作品42

P. ヒンデミット：吹奏楽のための交響曲変ロ長調 他

○指揮 大木孝雄

○演奏 日本大学芸術学部ウインドオーケストラ

●第42回ピアノコンサート

於：練馬文化センター小ホール
11月25日(月)

15時00分開場／15時30分開演

本学ピアノコースの学生による選抜演奏会です。

●第112回定期演奏会

於：東京芸術劇場コンサートホール
12月13日(金)

17時30分開場／18時30分開演

＜演奏曲目＞

ヴェルディ：歌劇「シチリア島の夕べの祈り」序曲

ブラームス：管弦楽と合唱のための「運命の歌」・「哀悼歌」

ワーグナー：楽劇「トリスタンとイゾルデ」より前奏曲と愛の死

レスピーギ：交響詩「ローマの祭」

○指揮 矢崎彦太郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

○合唱 日本大学芸術学部合唱団

●第34回新作室内楽の会

於：芸術学部音楽小ホール
12月20日(金)

開場／開演時刻未定
提出作品より選抜された演奏会です。

●大学院修了演奏審査会[声楽・ピアノ]

於：芸術学部音楽小ホール
12月18日(水)
声楽：11時開演
ピアノ：15時開演

●大学院修了演奏審査会[弦楽・管楽]

於：芸術学部音楽小ホール

12月19日(木)
13時開演

●平成25年度大学院修了演奏会

於：練馬文化センター小ホール
平成26年3月13日(木)
開場／開演時刻未定
大学院修了演奏審査会において優秀であった院生の演奏会です。

●平成25年度卒業論文要旨発表会

於：芸術学部音楽小ホール

平成26年3月20日(木)

開場／開演時刻未定
卒業論文が優れていた学生による論文発表です。

●平成25年度卒業演奏会

於：練馬文化センター小ホール
平成26年3月20日(木)
開場／開演時刻未定
卒業演奏審査会において優秀であった学生の演奏会です。

文芸ブロック



■よしもとばなさんが第7回日藝賞受賞記念公演

第7回日藝賞を受賞したよしもとばなさんが、江古田校舎にて記念公演を行い好評を博しました。
タイトル「作家への道、より道含む」
2013年6月7日

■平成13年度卒 佐島佑さんが日本

ホラー小説大賞読者賞を受賞

佐島佑(本名：池里佑介)さんの、第20回日本ホラー小説大賞(角川書店主催)読者賞受賞作『ウラミズ』は、2013年秋、角川ホラー文庫から出版される予定です。

■第23回ゆきのまち幻想文学賞で3年の永沼さんが入選

文芸学科3年永沼絵莉子さん(ペンネーム：真瀬いより)が、小説「溶けない結晶」で第23回ゆきのまち幻想文学賞に入選しました。入選作は「ゆきのまち幻想文学賞小品集23」に収録されます。

■伊藤園お〜いお茶新俳句大賞に文芸

学科から6名の受賞者

「第24回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」には、165万211句の応募があり、その中から以下6名の文芸学科生の作品が選ばれました。

【佳作】夕立を聞きながらただ鶴を折り
小沼理(4年)／西の市晶屑の役者と袖ふれ合い 加藤滯(4年)／食卓の木目なぞりて冴ゆる声 宮崎綾(4年)／早梅を隠し通せぬ良き日かな 笠原早有実(文芸卒)／さよならを伝えず帰りキャベツ割る 永沼絵莉子(3年)／どうしたの何を焦るのソーダ水 鈴木日向子(2年)

演劇ブロック



◇演劇系大学共同制作Vol.1「わが町 Our Town」を上演

演劇の実技教育を担う東京都内の五つの大学(桜美林大学、玉川大学、多摩美術大学、桐朋学園芸術短期大学、日本大学)が結集し、今年春に設立された東京演劇大学連盟による第1回公演が、9

月5日(木)から8日(日)の期間、全5回にわたり、東京池袋にある東京芸術劇場シアターイーストで開催されました。記念すべき初回公演は、日本大学芸術学部演劇学科が中心となり、文化庁、日本大学が主催、さらに「平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」として文化庁の委託を受け、ソートン・ワイルダーの名作『わが町 Our Town』を上演。演出は日本大学芸術学部演劇学科の桐山知也助教。5つの大学の学生、教員が参加し、大いにその成果を発揮しました。

◇洋舞コース有志が第26回All Japan Dance Festival-KOBEで神戸市長賞を受賞！

演劇学科洋舞コース有志が、本年度、第26回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)に創作コンクール部門(大学)で参加出品。上演した作品『前菜』が新境地を切り開く独創的な発想の探求を高く評価され、見事「神戸市長賞」を受賞しました。

◇第1回せんだい短編戯曲賞で大賞を受賞！

演劇学科劇作コース4年次生の松嶋

優季さん(ペンネーム：綾門優季)が、宮城県仙台市の仙台市文化事業団主催「第1回 せんだい短編戯曲賞」で大賞を受賞しました。同賞は、仙台市が舞台芸術に関わる人材育成を目的に昨年新設したもので、受賞作品は松嶋さん自身が所属する劇団で昨年9月に上演した『止まらない子供たちが轢かれてゆく』。受賞作品は今後舞台上演されるほか、戯曲集も製作される予定です。

◇後期実習発表スケジュール

本年度後期も所沢校舎・江古田校舎におきまして、さまざまな実習発表及び卒業制作公演を実施いたします。校友の皆様方のご来場をお待ちしております。尚、発表に関しましては、全公演インターネットからの事前予約が必要です。詳しい予約スケジュール及び予約方法に関しましては、演劇学科ホームページ
<http://theatre.art.nihon-u.ac.jp/>
でご確認ください。

【後期発表スケジュール】

※タイトル及び詳しい内容は演劇学科ホームページでご確認ください。

※ ●=所沢校舎 ○=江古田校舎

●舞台総合実習Ⅰ(演劇)《2年生》

- ・10月10日(木)～12日(土)
- ・演出：加藤直
- ・所沢校舎ブラックボックス

○舞台総合実習VD(洋舞)《3.4年生》

- ・創舞指導：松永雅彦
- ・10月18日(金)・19日(土)
- ・江古田校舎中ホール

○舞台総合実習VA(演劇)《3.4年生》

- ・10月25日(金)～27日(日)
- ・演出指導：田中麻衣子、梅山いつき
- ・江古田校舎・小ホール

○卒業制作(演劇)《4年生》

- ・11月14日(木)～16日(土)
- ・演出：岩澤哲野(演劇学科4年生)
- ・江古田校舎・中ホール

●舞台総合実習Ⅰ(洋舞)《2年生》

- ・11月22日(金)・23日(土)
- ・創舞指導：加藤みや子、松永雅彦
- ・所沢校舎ブラックボックス

○舞台総合実習IVA(演劇)《3.4年生》

- ・11月29日(金)～12月1日(日)
- ・作・演出：川村毅
- ・江古田校舎・中ホール

●舞台総合実習Ⅰ(日舞)《2年生》

- ・12月7日(土)
- ・創舞指導：藤間恵都子
- ・所沢校舎ブラックボックス

○卒業制作(洋舞)《4年生》

- ・12月13日(金)・14日(土)
- ・創舞指導：加藤みや子
- ・江古田校舎・中ホール

○卒業制作(日舞)《4年生》

- ・12月20日(金)・21日(土)
- ・創舞指導：花柳昌太郎
- ・江古田校舎・中ホール

放送ブロック



■カンヌライオンズ2013でブロンズを受賞

ACCが国際的に通用する若手クリエイターの育成を目的として実施しているカンヌライオンズ「ヤングクリエイティブコンペティション」の国内選考会で、電通の佐藤雄介さん(H18年度卒)と長久允さんのチームがフィルム部門の日本代表に選出され、6月にフランスのカンヌで開催された国際大会に出場しました。

結果、ヤングライオンズフィルム部

門で見事ブロンズを受賞し、この部門で日本を初めての入賞に導きました。

■卒業生出演作品が放送文化基金賞で本賞を受賞

名古屋の東海ラジオが制作したラジオドキュメンタリー「よみがえる話芸 節談説教」が第39回放送文化基金賞のラジオ番組部門で本賞を受賞しました。本作のナビゲートとナレーションを卒業生で講師として活躍されている神田京子さん(平成11年度卒・本名：本田尚子)が担当されました。

本作は、第67回芸術祭のラジオ部門でも大賞を受賞しています。

■「中学生のための情報番組制作ワークショップ」のご報告

平成22年度から練馬区と放送学科が

協同で実施している情報教育推進事業「中学生のための情報番組制作ワークショップ」が今年も6月29日から8月3日にわたって行われました。区内の中学校に通う19人の生徒が鈴木康弘教授の指導を受け、学科の施設、機材を使ってニュース番組の制作を行いました。

制作した番組は、8月5日に江古田校舎EB1教室にて開かれた講演会「テレビ・メディアを考える」で上映され、ワークショップのまとめとして、情報を読み解き判断する力を身につけることの大切さを鈴木教授がお話ししました。

■上原清先生がご逝去されました。

永年に亘り放送学科の専任教員として活躍された上原清先生が6月にお亡くなりになりました。先生は、平成

23年に定年を迎えられた後も非常勤講師として教鞭をとられ「テレビ史」をご担当いただいていた。また、在職時には、テレビ番組のアーカイブにご尽

力いただき、放送学科に多くの映像資料を収めていただきました。これからも学科で大切に保管し、活用させていただきます。ありがとうございました。

慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

デザインブロック



■第5回JPCAデザインアワードで準優秀賞等を受賞

第5回JPCAデザインアワードは、一般社団法人日本電子回路工業会が東京ビックサイトでおこなわれる電子回路部品を中心としたマイクロエレクトロニクスショー「JPCA Show」のメインビジュアルを募集するコンペティションです。そのポスターコンペで高橋弦人さん(コミュニケーションデザインコース3年)が準優秀賞を授業。伊藤亜友里さん(コミュニケーションデザインコース3年)が優秀賞。武藤由莉さん(コミュニケーションデザインコース3年)が奨励賞を受賞しました。

■サンノゼ州立大学、デザイン学科視察記念で中西元男氏(PAOS)が特別講演

5月29日にサンノゼ州立大学がデザイン学科を視察しました。その視察記念としてNTTをはじめとして数多くの企業のCIを手がけたCI戦略コンサルタントの中西元男氏の特別講演会が行われました。デザインの考え方からデザイン教育のあり方まで非常に内容の濃いお話を聞くことができました。その後、サンノゼ州立大学との軽食を囲んだ交流会も行われ、情報交換が活発におこなわれました。

■ハイナー・ゲッペルス氏(Heiner

Goebbels)の公開特別講義

ドイツを代表する現代音楽の作曲家として、数々の音楽劇を展開しているハイナー・ゲッペルス氏の公開特別講義が7月16日に江古田校舎にて、デザイン学科、音楽学科、演劇学科合同で開催されました。同氏は、ギーセン・ユストゥスリービッヒ大学応用演劇研究所教授として教鞭をとる一方、近年は国際イブセン賞の受賞をはじめ、ルールトリエンナーレ(Ruhrtriennale2012-2014)の芸術監督も務めています。歌、音楽、演劇、映像などといった様々な表現手法を取り入れた音楽劇の魅力などについてお話しいただきました。

■「第8回金の卵オールスターデザインショーケース」に出展

全国からデザイン系の大学の学生作品を集め展示する「第8回金の卵オールスターデザインショーケース」展が8月29日から9月8日まで、六本木のアクシスギャラリーで開催されました。デザイン学科からは、インダストリアルコース3年の岡田映子さんと南出由裕さんの作品が授業課題部門に出品され、好評を得ました。

■桑原淳司教授の個展「SOMETHING WONDERFULL」を開催

桑原教授の個展が9月17日から26日まで、江古田校舎A&Dギャラリーにて開催されました。2005年の海外研修でヨーロッパの主要都市を巡り、歴史的建造物から新しい都市計画、環境計画に至る約9000カットにも及ぶ画像やスケッチを制作。今回はその中から教授自身が特に素晴らしいと思われるもの150点ほどが展覧されました。



SAGRADA FAMILIA Architect: Antonio Gaudi
Barcelona, Spain

■卒業生の活躍

熊田綾菜さん(平成22年コミュニケーションデザインコース卒)が「和紙の里ひがしちぶ展」(版画フォーラム2013)で埼玉県知事賞を受賞、「第12回南島原市セミナリヨ版画展」で入賞を果たしました。深澤直子さん(平成22年コミュニケーションデザインコース卒)も「和紙の里ひがしちぶ展」にて、みどりの杜奨励賞を受賞しました。

■コミュニケーションデザインコース3年生による展覧会のご案内

コミュニケーションデザインコース3年生による展覧会「デザインサーカス展」が下記により開催されます。授業課題で制作した作品が多数発表されますので、是非ご覧ください。

日程：11月27日～12月19日

場所：江古田校舎ギャラリー棟、芸術資料館



第38回土日会展：絵画作品を公募しています

会期 2013(H25)年12月11日(水)～12月23日(月)

会場 国立新美術館1階展示室1A室

搬入 11月29日(金) 10:00～ 作品50号以上

案内 土日会事務局 0422-48-1007(T&F)

遠慮なくお問い合わせください 事務局 三浦裕之

芸術祭のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。
ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。10月に39年(サンキューイヤー)を迎える。

(株)スピーチ・バルーン▶1985年
発足。絵本、コミック、アニメ他、企画本の制作、出版プロデュースを主とし、グループ4社の進行管理を担う。また、各種イベントの企画・構成・プロデュースなども行っている。

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

design: スタジオ・マイ



編 集 後 記

この原稿の締切日をちょっと過ぎたところで、2020年のオリンピック開催地が東京に決定しました。

80年代、僕が高校生の頃に観たアニメ映画「AKIRA」の舞台は2019年ですが、そこでも翌年の2020年にはネオ東京オリンピックが予定されていました。優れた作品は時として偶然を呼び寄せますね。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部校友会報・第91号

2013年秋号 ●平成25年10月発行●

●編集人 会報編集委員会

●発行人 綾部東洋子

●広報担当 鈴木孝史 今泉久 青木敬士
小林直弥 金龍郎 木村政司

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北嶋 留美子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-40-10
三翔ビル本郷
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙
美術学科
瀬戸内国際芸術祭2013夏
バンク・プロジェクト
チャール・ドルボン

2014年度一般入学試験〈第1期〉・〈第2期〉日程

I 一般入学試験諸日程〈第1期〉(募集人員374名)

学科及び 募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (43) 美術 (30) 音楽 (43) 放送 (54) デザイン (40)	1月28日(火)	1月28日・29日 (火・水)のみ 窓口受付	2月4・5日(火・水) ----- 2月4・5・6日(火・水・木) ----- 一次 2月4日(火) 二次 2月7日(金) ----- 2月4・5日(火・水)	芸術学部江古田校舎	2月13日(木) 13:00 ----- 一次 2月6日(木) 14:00 二次 2月13日(木) 13:00 ----- 2月13日(木) 13:00	2月27日(木)
映画 (64) 文芸 (60) 演劇 (40)	2月4日(火)	2月4・5日 (火・水)のみ 窓口受付	2月11・12日(火・水) ----- 2月11日(火) ----- 2月11・12日(火・水)		2月20日(木) 13:00	3月6日(木)

- ※ 一般入学試験に関する〈第1期〉各期日はすべて2014年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2014年1月8日(水)、一般入学試験〈第1期〉の入学手続きは二段階手続方式が可能。
二段階方式の最終入学手続期限は2014年3月25日(火)とします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 1月27・28日、2月3・4日(いずれも月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00~16:00)
- ※ 1月28・29日、2月4・5日(いずれも火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00~16:00)

II 一般入学試験諸日程〈第2期〉(募集人員57名)

学科及び 募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (5) 映画 (10) 美術 (5) 音楽 (5) 文芸 (10) 演劇 (7) 放送 (12) デザイン (3)	全学科 2月25日(火)	2月25・26日 (火・水)のみ 窓口受付	3月4日(火) ----- 3月4・5日(火・水) ----- 3月4日(火) ----- 3月4・5日(火・水) ----- 一次 3月4日(火) 二次 3月7日(金) ----- 3月4・5日(火・水)	芸術学部江古田校舎	3月13日(木) 13:00 ----- 一次 3月6日(木) 14:00 二次 3月13日(木) 13:00 ----- 3月13日(木) 13:00	3月25日(火)

- ※ 一般入学試験に関する〈第2期〉各期日はすべて2014年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2014年1月8日(水)、入学手続期限は2014年3月25日(火)とします。
一般入学試験〈第2期〉に関しては一括での手続きとします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 2月24・25日(月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00~16:00)
- ※ 2月25・26日(火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00~16:00)